

ホストシティ Tokyo プロジェクト

伝統と革新に裏打ちされた文化、最新のテクノロジー、環境への高い意識、災害対応のノウハウなど、大会のステージである「東京」が蓄えてきた都市としての力や資源は、東京 2020 大会を史上最高の大会とするための不可欠な要素である。

大会を成功に導くとともに、そのレガシーを活用しながら大会後も東京の新たな魅力と日本全体の更なる成長を獲得していくことを基本的な視点として、ホストシティとしてのプロジェクトを展開する。

具体的には、ホストシティとして重点的に取り組むべき、以下の視点に該当する事業を 6 分野 16 プロジェクトに体系化し、全庁横断的に取組を推進していく。

- 大会の盛上げに向け都民・国民の一体感・共感を高める取組
- 大会前、そして大会後も観光客や投資を東京に呼び込む取組
- 都市の質や価値を高め、東京の都市力を向上させる取組

I 大会気運醸成

- ・多くの都民・国民が参加できる多種多様なプログラムを展開し、大会へのワクワク感を共有するとともに、スポーツに親しめる社会を実現する。
- ・開催都市東京ならではの新たな視点から取組内容を充実・強化し、オールジャパンで魅力的な大会を創り上げていく。

- ① 祝祭・盛上げ空間の創出（ライブサイト、シティドレッシング 等）
- ② 都民・国民参加プログラムの展開（カウントダウンイベント、フラッグツアー 等）
- ③ 大会を契機としたスポーツの裾野拡大（ノーリミッツチャレンジ 等）

II 魅力発信（観光・文化・シティセールス）

- ・世界中から多くの人々が集まる大会を契機に、東京の新たな魅力を創出するとともに、快適に滞在できる環境を提供するなど、インバウンド拡大につなげる取組を推進する。
- ・大規模な M I C E の開催を通じて、今後のインバウンド獲得に資するノウハウを蓄積し、都市としての質や価値を一層高めていく。

- ④ 魅力的な観光資源の開発・発信（プロジェクションマッピング 等）
- ⑤ 誰にも優しい滞在環境の整備（バリアフリー情報の発信 等）
- ⑥ 東京文化プログラムの拡充・推進

Ⅲ 復興・防災

- ・大会の原点は「復興オリンピック・パラリンピック」であり、「被災地の復興なくして、大会の成功はない」という認識の下、開催都市東京として、被災地を支援し、国内外に復興の姿を示すための取組を引き続き推進する。
 - ・自然災害からの復興を通じて得た知見等を世界レベルで共有し、レガシーとする取組を大会後も継続していく。
- ⑦ 被災地支援・復興の発信（スポーツ交流、道で咲かせよう東北の花プロジェクト 等）
 - ⑧ 東京の防災力・災害対応力の発信（インフラツアー 等）

Ⅳ 環境

- ・持続可能な大会のコンセプトと連動して、選手村等でサステイナブルな東京の効果的なプレゼンテーションを行い、世界をリードするスマートエネルギー都市を目指す。
 - ・低炭素型社会の実現に向け、環境技術の更なるイノベーションや、環境配慮型ビジネスモデルへの改革を促していく。
- ⑨ 環境施策に関する都市間交流の推進
 - ⑩ 水素エネルギー利活用の推進（水素エネルギー普及促進 等）
 - ⑪ 低炭素・快適性等を備えたスマートエネルギー都市（LEDの普及促進、暑熱対策 等）

Ⅴ 先端技術

- ・民間企業と連携し、最新の技術力を活用した挑戦的取組を行うことにより、新たなビジネスの創出を促すとともに、大会での利用などを通じ、日本の技術力を世界に発信していく。
- ⑫ テクノロジー・ショーケース（羽田空港周辺地域等における自動走行システム等の実証実験の促進 等）
 - ⑬ 都市づくりの情報発信
 - ⑭ パラスポーツ用具の開発

VI 人材育成

- ・大会を契機として、多様性を尊重する意識・態度や国際感覚を醸成する取組を推進することで、東京、そして日本の更なる発展の担い手となる人材を育成するとともに、共生社会の実現を目指す。
- ・誰もが充実した生活を送り、東京の持続的な成長を支えていくため、柔軟な働き方に向けた取組を推進し、都民のライフスタイルに変革を起こしていく。

⑮ オリンピック・パラリンピック教育の推進

⑯ 働き方改革の推進（テレワークの普及促進 等）